

合格体験記「合格までに学んだ大切なこと」

私は学習開始から5年目にしてやっと合格できました。この5年間の学習期間で学んだ、成功するために大切なことについて述べていきたいと思います。

成功するために大切なこととして2つ挙げられます。まず、ひとつ目は「成功するまで絶対にあきらめないこと」で、ふたつ目は「やるべきことをただひたすらにやり続けること」です。どちらも非常に当たり前のことだと思います。ですが、これが非常に難しく、合格できずにいる人の共通点はこれらができていないようだ、ということも学びました。

これらの学びを得るに至った経緯を、私の学習遍歴を追いながら見ていきたいと思います。

まず、1年目の受験ですが、ほとんど勉強をすることがありませんでした。学習開始時期は2月の終わりくらいだったと思います。某大手予備校の通信教材を取り寄せて、それで勉強をしていましたが、テキスト等は半分くらいしか読みませんでした。添削教材もほとんど手を付けていません。結果として、1次試験の経営情報システムのみ科目合格で、他は惨敗となり不合格でした。ここで思ったのが、「この試験の勉強はかなりの長丁場になる。自分一人では必ずどこかで折れてしまうので、ペースメーカーとして予備校の通学講座を活用しよう」ということでした。

2年目では、9月から名古屋の某大手予備校の通学クラスを受講し始めました。この時に立てた目標として「養成答練は80点以上、模試では70点以上とる」ということでした。1次試験の内容はテキストに書かれていることを覚えていて、しっかりと問題さえ読み取れば必ず正解を選べると感じていました。合格までの計画をしっかりと立てていると思っていたのですが、実は2次試験についてはこの時なにも考えていませんでした。しかし、1次試験の内容に集中して学習することはできました。1年目の反省を活かして、講義までにテキストを1度読み込んで、講義後ももう1度読み込み、更に関連する過去問にあたるという形で、徹底して講義の範囲の予習と復習を繰り返しました。結果として、養成答練は財務と経済以外は80点以上、模試では合格点以上をとることができ、本試験でも合格することができました。そして、2次試験へと進むのですが、なにぶん初めての事なので、何をどう勉強すれば良いのかが全く分かりませんでした。予備校の答練でも、なんとなくでしか解答できず、復習もどのようにしていけば良いのかがまったく分かりませんでした。そして混乱したまま2次試験本番を迎えました。結果は当然「不合格」でした。しかし、この

結果は受け入れられるものでしたが、腑に落ちない点もありました。200字問題を空欄で提出した事例Ⅳの評価が「A」だったのです。2次試験の評価基準に対してますます混乱してしまい、次第にこの試験に対する不信感が高まってしまいました。

そんななか、3年目をどうしようかと考えていました。1次試験の勉強は昨年で手応えを感じていたので、独学でも大丈夫だろうと考えていました。問題は2次試験の勉強です。そこで出会ったのが2次試験専門校の「AAS名古屋・浜松」です。説明会に参加してお話を伺うと、2次試験の解答プロセスを徹底的に磨き上げるための指導をしてもらえるとのことでした。そこで、お世話になることに決めました。しかし、ここでひとつ私は見落としていました。「指導してもらえる」ということに甘んじて、「自ら勉強する」ということを疎かにしてしまいました。AASでは「設問分解」や「春秋要約」などの課題が頻繁に出されます。しかし、私はイマイチやり方が理解できずにほったらかしにしていました。この時、自分からもっと積極的に質問をして、なんとか課題をやり切る事ができていればと、今でも悔やんでいます。結局、1次試験の独学の勉強を優先してしまい、課題をほとんどやらずに、形だけの受講で試験本番を迎えました。結果は、1次試験は「合格」、2次試験は「不合格」でした。2次試験が終わった直後の打ち上げで、私は泣いていました。理由は、「もっとやれることはあったはずなのに、なにもやらずに来てしまい、結局なんの手応えもなく終わってしまった」ということへの後悔の涙でした。自分は頑張れない自分なのだと思うようになってしまい、こんな自分はこの資格を得るのに向いていないと考えるようになってしまいました。そして、次の年は、2次試験を受ける権利だけは使って受験はするけど、もう勉強はやめてしまおうと考えていました。

そして、4年目。しばらくは何も勉強していませんでした。ですが、それまでの受験仲間が諦めずに頑張っている姿を見て、さらには受験仲間やAASの先生方から励ましのお言葉などをいただく内に、徐々に2次試験への勉強意欲が湧き始めるようになりました。しかし、その時にはすでに2次試験の27日前。とにかくやれることをやろうと、ひたすらに合格者答案の写経と、1年前にAASで学んだ与件文から事例企業の強みと課題を見つける練習のみをやり続けました。結果として、この年も2次試験は「不合格」でした。ですが、評価は前年よりも良く、2次試験に対する手応えも感じることができました。

そして、運命の5年目に突入しました。それまでのことを思い出しながら、2つのことを常に意識するようにしました。それが、冒頭でも述べた「成功するまで絶対にあきらめないこと」「やるべ

きことをただひたすらにやり続けること」です。途中であきらめた時に、鷺山先生をはじめ、色々な方に拾い上げていただけました。「きっと、自分は何かの縁があってこの試験を受けているのだろう。だから、勝手に自分であきらめてはダメだ」と思うようになりました。また、講師の方々や様々な書籍からも「あきらめない」というキーワードが非常に多く出てくることにも気がきました。ですから、「これからもきっと挫折することはあるだろうけど、そのたびに立ち上がればきっとあきらめたことにはならない。合格するまではこれを繰り返してやる！」と強く意識することができました。また、これまで不合格だった原因は、正直なところ分かりませんが、ただひとつ分かっていることがあります。それは「やれることがあるのにやらなかった」ことです。予備校の指導法や提唱する解法などの違いもあるのかもしれませんが、その前に、それらの違いが分かるほどに自分はなにもやっていなかったのです。色々考えるだけで、具体的には何もやっていなかった。3年目に本科講座を受講していたのに感じられなかった手応えが、4年目に受講していなかったが感じられるようになったのは、やはりやるべきことに集中して、ただひたすらにやり続けたからだと思います。また、1次試験に対する自信というの、やるべきことをひたすらやってきたから芽生えたのだらうとも考えました。4年目の2次試験が終わった直後の11月から、毎日財務会計の計算問題に取り組みました。始めはやはり解けないので、解答を見ながら進めることしかできませんでした。また、途中で挫折して取り組まなかった日もありました。それでも、そのたびにもう一度やり直そうと思い、再開していきました。4月くらいには3冊ある問題集を3回転することができました。1次試験のその他の科目も、過去問を見直しも含めながら完璧になるまでひたすら繰り返しました。2次試験の勉強では過去問の事例企業の概要とあるべき姿が完璧に頭に入るように、合格者答案の写経や設問分解を繰り返しました。そして、いつ、何回解き直しても、同じような解答ができるまで、見直しと解答作成を繰り返しました。これらは、本科講座を受講していた時にいつも言われていたことですが、当時やっていなかったことです。結果として、1次試験は7科目合計506点で「合格」しました。特筆すべきは財務会計が92点という高得点だったことです。私は財務会計ではいつも足切り回避がやっとでした。このことから、「やれることをひたすらにやり続ける」ということの威力を実感できました。そして、2次試験でも「合格」しました。特別なことはしていません。実際に試験が終わったあとも、今年もダメだったと思っていました。それでも、「やれることはかなりやれたし、ひよっとすると合格しているかも」「合格でも不合格でも、どちらにしても今年の事例企業と向き合って今後に活かそう」とあきらめることはありませんでした。終わってからも「やれることをやろう」という思いから、すぐに再現答案を作成して、与件文から事例企業の概要をまとめるなどして復習をしていました。

正直、いまだになぜあの解答で合格できたのかは疑問です。ただ考えられるのは、「合格」したのは、試験後も「あきらめない」「やれることをやる」という姿勢を貫けるようになったからなのかもしれません。そして、合格したあともまだまだやれることは山程あります。合格はあくまでも人生の途中目標のひとつに過ぎません。自分の人生で良かったと思いつけるようになるためにも「あきらめず」「やれることをやりつづける」という姿勢で臨んでいきたいと思います。

以上